

じしん 地震に そなえよう

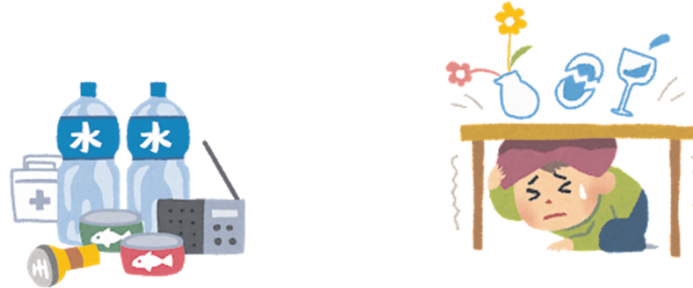
はんしん あわじ だいしんさい ねん がつ にち じ ふん じしん おお あらわ お
阪神・淡路大震災（1995年1月17日5時46分、地震の大きさを表すマグニチュード7.3）が起こった
かつ にち ぼうさい ひ がつ にち がつ にち ぼうさい しゅうかん き
1月17日が「防災とボランティアの日」、1月15日から1月21日までが「防災とボランティア週間」と決
められています。

はんしん あわじ だいしんさい お あと にほん ほか くに いそ き おお さいがい ひ がい
阪神・淡路大震災が起こった後、日本・他の国から急いで来た多くのボランティアがいました。災害で被害に
あつた ちいき もと こた さまざまな かつどう きょうじよ ちか ひと たす あ ぼうさい かつどう げん
あつた 地域の求めに 応える さまざまな活動が行われ、共助（近くのひとと助け合うこと）による防災活動の原
てん 点となりました。ボランティアの数は兵庫県の調べによると、地震が起きた日から4月18日までの3か月間で
あ 合わせて117万人にもなりました。新潟県中越地震（2004年10月23日17時56分、マグニチュード6.
8）や、東日本大震災（2011年3月11日14時46分、マグニチュード9.0）の時も、多くの人がボラン
てん ティア活動に参加しました。

おお じしん お あと いちばん たいせつ ひと いのち まも かじ ひ がい
大きな地震の起きたすぐ後に一番大切なことは、人の命を守ることです。そして、火事による被害をできる
だけ 少なくすることです。また 同時に、壊れた家などのかわらや、石の下などに埋もれた人をできるだけ早く
たす 助け出し、病院に運ぶことも大切です。

はんしん あわじ だいしんさい じしん お あと かじ おお きゅうじよ きゅうきゅう ひつよう しゅう
しかし、阪神・淡路大震災では、地震が起きたすぐ後から火事や多くの救助・救急が必要なできごとが集
ちゅう お どうろ でんわ と じょうきよう しょうぼう しごと ひと たい
中して起きました。道路がふさがれ、電話などが止まった状況で、いつもの消防の仕事をする人たちだけで対
おう 応するには限りがあり、自助（自分で備えておくこと）・共助がどのくらい必要かが再び知られました。

ねん いない かくりつ しゅと ちよつかじしん どうきよう お おお じしん お い
これから30年以内に70%の確率で首都直下地震（東京で起こるとも大きな地震）が起こると言われて
ぼうさい しゅうかん ぼうさい いしき たか さいがい
います。「防災とボランティア週間」をつうじて、ひとりひとりが防災についての意識を高くします。災害への
そなえ よ
備えをもっと良くしてってください。



くわ
詳しくはこちら

「地震に備えて」（日本語） https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/bou_topic/jisin/life00.html

「地震に対する10の備え」（日本語） https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/bou_topic/jisin/sonae10.htm